

「路線廃止・減便」から生まれる功罪は ～「信頼からの撤退」に対する考察②～

～「地域協議会」に申し入れ～

3月末の一般新聞各紙に、当局が「地域協議会」に対し35区間を廃止・減便を申し出た、という記事が掲載された。

この路線は、中期事業計画での「民間委譲路線」や「市場原理になじみにくい路線」とも一線を画した、新たな減便策である。ここの部分是不採算路線であり、2004年度の赤字総額は6億7千万円に上るというのも理由だが、この理由とは別に、鉄道や別のバス路線と重複している路線であるということも理由に挙げている。別系統が走っていたり、鉄道駅に近いため、住民への影響は少ないと判断されているのだ。この35区間の廃止か存続かの方向はこの10月に方向性を示すという。

～経営なのか、信頼なのか～

この中に挙げられている路線に、95系統という路線がある。

この路線は、横浜駅西口と市が尾駅を結ぶ、前号に掲載した5系統同様、長距離路線である。ただ、5系統と決定的に違うのは、「第三京浜」という有料道路を経由し、目的地へ向かう、いわば特急みたいな路線である。

運行頻度は多くないが、当然、固定客は多い。第三京浜港北インター周辺には会社や工場が多く、そこに通う人は横浜駅よりこのバスを利用するのだ。

廃止の理由である、「別系統」は、運行本数の多い41系統が走っているので、影響は少ないのかも知れない。しかし、41系統に乗るには中山駅もしくは新羽駅を利用する事になる。交通局的には、うまく行けば横浜から地下鉄で新羽駅まで出て、41系統に乗るという、ダブルの収益が期待できるのだ。経営面では、確かに一理はあるのかも知れない。

ただ、朝の通勤客の一番重要としているのは、何だろうか・・・それは、「時間」である。朝はなるべく時間の余裕が欲しいのは、皆さんも同じではないだろうか。

横浜駅西口から95系統で港北インター近くの「新開橋」バス停まで、平日朝は18分で運行している。41系統新羽駅から新開橋までは5分なのだが、横浜駅から利用する場合、横浜駅から新羽駅の地下鉄での所要時分はまでは15分であり、単純に乗り換え時間含めなくても20分かかる事になり、間違いなく95系統の方が早く着く。95系統を使った方が、料金が安いのも確かだが、それ以上に時間を有効に使えるという事が、固定客のいる理由であると考えられるのだ。

95系統が廃止になれば、そこに通勤している乗客は他の手段で通勤するだろう。しかし、乗客の生活スタイルは変化を余儀なくされるのは、「信頼を運ぶ」にはほど遠いと感じてしまうのだが、皆さんはどう考えるだろうか。

(つづく)